誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

子どもに「言うことをきかせる」方法

早稲田アカデミー
第六事業部（城東・千葉エリア）
統括責任者
福田　貴一

子どもに嫌いなニンジンを食べさせるには、2つの言い方があります。「残さず食べなさい！」という言い方と、「ニンジンにはとても栄養があるのよ、だから食べなさい」という言い方です。「ニンジンを食べる」という行動だけを求めるのであれば、どちらの言い方も有効でしょう。では、家庭学習をさせる場合はどうでしょうか。今回は「行動の質」を意識した子どもへの接し方について考えます。

2つの言い方、それぞれのメリットとは

先ほど紹介した2つの言い方には、大きな違いがあります。

「残さず食べなさい！」というのは、とにかく食べさせることに主軸を置いた言い方です。一方、「とても栄養があるのよ」という言い方は、「納得させる」ことに主軸を置いています。「言うことをきくとどうなるのか」という結果を子どもに理解させることで、納得して食べる（行動する）ように仕向ける方法ともいえるでしょう。

アメリカの育児書などには「子どもの〝わがまま〟は放置せず、譲歩しない」と書かれているものがあります。そこには、親子の上下関係をはっきりさせ、親の言うことに従わせるという考え方があるようです。「なぜそうするべきなのか」という理由がまだ理解できない年齢の子どもには、効果的な方法でしょう。またこの方法には、「なぜ食べないといけないのだろう?」と、行動の理由を自分で考えるようになる、という効果も指摘されています。

一方、「意味・理由を説明して納得させる」という方法のメリットは、説明されたことをきちんと理解できれば、「親が見ていないところでもその行動をとるようになる、という点です。ニンジンの例でいえば、親の目が届かない学校の給食でも、残さずに食べるようになるわけです。ただし、理解はしていても「食べたくない」という気持ちが強ければ、結局は食べずに残してしまうことも多くあるでしょう。

「行動の成果」が求められる場合は…

ニンジンの例のように「食べる」という行動だけを求めるのであれば、どちらの方法でも結果に大きな違いはありません。しかし、その行動に成果が求められる場合、2つの方法には大きな差が出てきます。

たとえば子どもに漢字の学習をさせる場合、求められるのは「書く（練習する）」という行動と、「覚える」という成果です。「とにかく5回ずつ書いて覚えなさい！」という言い方では、漢字練習帳に5回ずつ書くという行動はとれたとしても、前向きに取り組むことができず、覚えないまま終わってしまうかもしれません。一方、「次のテストで出題されるからしっかりやろう」「頑張って覚えれば満点がとれるかもしれないよ」といった言葉を添えると、子どもは「よし、やるぞ！」という意欲を持って取り組むことができるのです。

同じ行動でも、意欲と姿勢によってその「成果」は変わってきます。つまり、「行動の成果」が求められる場合は、その行動の「質」が問われるのです。

「目標」が「行動」に意味を与える

保護者の方から、「うちの子は机の前に座っている時間は長いのに、成績がなかなか上がらなくて……」というご相談をいただくことがあります。このようなケースでは、机の前に座ってテキストを読んだり、問題を解いたりする行動が「成果」につながっていないと考えられますので、家庭学習の「質」を高める工夫が必要です。具体的には、一つひとつの課題に制限時間を設けたり、集中できる環境を整えたり、とさまざまな方法がありますが、何よりも大切なのは、その「行動（家庭学習）の意味」をきちんと理解させることです。

そこで大切なのは、行動の先にある「目標」です。甲子園出場を目指している高校球児なら、単調な体力トレーニングやきついランニングにも真剣に取り組むことでしょう。

中学受験に向けた学習の最終目標は、もちろん「志望校への合格」です。志望校がしっかり決まっていて、そこに対する憧れの気持ちが強ければ強いほど、目標達成に向けた「行動の質」は高まるはずです。とはいえ、小学生にとって2年後、3年後の「目標」を常に意識して学習するのは難しいものです。そこで、「今週末のテストで漢字は満点をとる」というような、短期・中期的な目標設定が必要になるのです。

「志望校合格」という大きな目標のために「今週末のテスト」があり、そこで結果を出すためには漢字の練習が必要だ……と、お子様が「行動（家庭学習）の意味」をしっかり理解することで、家庭学習の質は大きく変わってきます。

ニンジンの美味しさを伝えることが、講師の使命

さて、「嫌いなニンジンを食べさせる」ためには、まったく違う〝切り口〟もあることにお気づきでしょうか。それは、「子どもが食べたくなるように、美味しく調理をする」という方法です。周囲の大人は、子どもに嫌なこと、やりたくないことをなんとかやらせる方法を考えるだけでなく、子どもが「自らやりたい」と感じられるようにしていくことも大切だと思うのです。

勉強に関していえば、その役割は保護者の皆様以上に、私たち塾の講師が担っています。勉強の楽しさを伝え、できたときの喜びを体感させ、自ら学習に取り組む姿勢を育んでいくことが、講師の大きな使命だと考えています。私が勤務している早稲田アカデミーの教育理念は、「本気でやる子を育てる」です。私たち講師は、受験を通して子どもたちが自ら学ぶ姿勢を身につけられるよう、そしていつか自らの力で人生を切り拓いていけるよう、日々の指導を行っています。

早稲田アカデミー　ホームページにて
ブログ　福田 貴一の 四つ葉cafe　公開中!

中学受験をお考えの小学校３・４年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。
早稲田アカデミー
第六事業部
（城東・千葉エリア）
統括責任者
福田 貴一
中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。
詳細はホームページをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索
右の二次元バーコードを読み込んでご確認下さい
スマートフォンのみ対応